

デンマーク

Vol.1 15歳で「大人」の仲間入り。～誕生祝い、堅信礼のこと



今回は、デンマークに留学していたという藤田さんにお話をうかがいました。

どうしてデンマークに留学しようと思われたのですか？

英語圏ではない外国に行きたかった。「よく知らない国だったから」という理由でデンマークを選びました。



暮らしてみてどんなところが大変でしたか？

寒かったこと。雷(ひょう)が頭の上で降ると痛かった。あとは、物価が高いこと。貧乏学生だったので、気軽に外食や買い物をする事ができませんでした。

お誕生日のお祝いは、どのようなものでしたか？

子どもは学校の友達などを招待してパーティーをします。大人数だとホールを借りて開く場合もあります。家族内では親戚が集まってお祝いします。



ケーキの定番は？

マジパンのケーキやシュー皮のような生地で人や動物のかたまりに焼いたケーキ。これにグミキャンディを載せたり、小旗をたくさん刺していました。

メインディッシュになっているメニューは？

人が集まると、豚のかたまりをオーブンで長時間ローストしたものをよく食べました。子どものパーティーならソーセージやピザ、スナックが中心ではないでしょうか。



その他、お誕生日に関するお話があれば教えてください。

お誕生日を迎えた人のいる家では、必ず国旗を掲げていると思います。私のいた家でも庭に立つ長いポールに国旗を掲げていました。

デンマーク人は国旗を愛し、誇りに思っています。クリスマス・ツリーやバースデー・ケーキにも小旗を立てますし、商店の広告でもよく使います。サッカーのサポーターが顔に国旗を描きますが、それはデンマーク人が最初だといわれているそうです。

日本の成人式と同じような儀式はありましたか？

15歳になると、信仰を固めるために「堅信礼」という儀式が行われます。生まれた時に教会で洗礼を受けた人が、改めて「これから教会員として生きていきます」と告白してその教区に認められる式のことです。堅信礼の後は飲酒も合法的に許されます。

15歳になる年の人を教区ごとにまとめて行うものだと記憶していますが、教派の多いプロテスタントのことなので執り行う年齢は異なる所もあると思います。

私はホストファミリーの甥の堅信礼に出席しました。

出席者は午前中に教会に行き、席につきます。対象者が礼装(男子は黒スーツ、女子は純白のドレス)に身を包んで拍手の中入場します。オルガン演奏、聖歌隊の賛美歌、信仰告白などの後、名前を呼ばれた子が2人ずつ前に出ます。牧師さんが頭の上に手をかざし祝福の言葉を与え、堅信礼を前に教会で行われた課程を修了したという証明書を渡す。次に、説教や各種団体からの祝辞が述べられます。それから「聖体拝領」。つまりキリストの血と肉(ぶどう酒とパン)をもらいます。そして閉会です。

そのあとは、それぞれの親戚家族や招待客で盛大なパーティーをしました。コミュニティ全体で祝福する儀式なので、日本の成人式に近いものだろうと思います。

ホストファミリーの子どもが堅信礼を受けた時は、親類からアメリカ旅行や自転車などをプレゼントされたそうです。

アメリカでは16歳、デンマークなど北欧では15歳。大人の入口に立った子どもたちを、コミュニティ全体が「家族」となって祝福するんですね。

次回もデンマークからお伝えします。

デンマーク

Vol.2 小さなクリスマスの主役、ユールニッセ。～家族の守り神



今回もデンマークに暮らしていた藤田さんにお話をうかがいます。

**クリスマスの祝い方についてお聞きします。
まず、クリスマス菓子の定番は何でしたか？**

ケーキは果物を使ったものなど色々ですが、家庭で作るケーキはタルト風で、クリームで飾ったものはあまり見た事がありません。
クッキーはジンジャークッキー、ココナッツマカロンなどです。

プレゼントはどんな風に？

友達や家族全員に買います。私のいた家は4人子どもがいて、12月1日から24日まで毎朝小さな贈り物をあげていました。子どもは大喜びですが、親は大変そうでした。

メインディッシュになっているメニューは？

普通のパーティーとあまり変わらないと思います。が、この季節独特のものはあるようです。
まず前菜としては、米のミルク粥があげられます。やわらかく煮た米に生クリームと塩を足して粥を作り、バターとシナモンの粉と砂糖を混ぜたものをかけて食べる。これは、寒い時期に普段から食卓に出されます。
次に主菜。これは家庭によってまちまちです。ガチョウの丸焼きであったり、アヒルの丸焼きであったりしますが、一般的であったのは豚のロースト。食べる時は薄くスライスして取り分け、焼いたときの肉汁で作るグレイビソースをかけて食べます。
砂糖とバターに絡めたジャガイモと、赤キャベツがつけあわせとして出される事が多いです。

クリスマスで一番楽しいことは？

もみの木を選んだり飾り付けをしたりといった準備。
それから、イブに家族全員で手をつないでツリーの周りを歌いながら回り、そのあとツリーの下に積まれたプレゼントを手にとって添えられたカードを読むこと。

思い出にのこっていることは何ですか？

イブはお父さんの実家に集まり、次の朝はお母さんの実家で「朝のコーヒー」に集まりました。とにかく忙しかったです。

その他、クリスマスに関するお話があれば教えてください。

デンマークでは、サンタクロース(「ユールマン」という)より、ニッセという小人たちの存在が大きいです。切り絵などと共にニッセの人形もたくさん飾られます。ニッセとは北欧の民間信仰に伝わる小妖精とされています。
もともと農家の家畜小屋に暮らし、馬や牛を守ってくれていたとされますが、現在では、玄関・台所・屋根裏など家中どこにでもいて、子供たちや家を守ってくれるといわれています。クリスマスイヴにプレゼントを持ってやってくるのも、サンタクロース(ユールマン)ではなくユールニッセであると考えられています。
ユールニッセは灰色の服に灰色のズボンをまき、赤の頭巾に赤のタイツをまいて、黒い木靴を履いていると考えられてきました。また、ユールニッセには奥さんや子供もいるとされていて、いたずら好きな性格だとのこと。
クリスマスが近づくと、家の中ではあちこちにニッセの絵を飾ったり、子供は赤い三角帽をかぶってニッセの真似をしたりするのです。ニッセは街のショーウィンドウや広告、クリスマスビールのラベルなど、いたるところで見られます。

子どもを守ってくれる、もう一人の「家族」がニッセなのかもしれませんね。次回はデンマークからの最終回です。



デンマーク

Vol.3 デンマークあれこれ～家族のこと、ルシア祭



今回はデンマークから、藤田さんのお話の最終回です。

デンマークに暮らしてみて、どんなところがよかったですか？

大きな街でも清潔で美しいところです。デンマークの大きな特長だと思います。

というのも、滞在中ヨーロッパの他の国にも行きましたが、都会では落書きなども多くショックを受けました。

実際に行ってみて驚いたことがあれば教えてください。

子どもからお年寄りまで英語が上手なこと。英語圏から来た人は気をつけないと英語のまま生活できてしまう、と私は思っていました。

あとは、自宅によく人を招くこと。夕食後、パンをこね始めたので何かと思えば「夜のお茶会」用で、本当に9時過ぎに人がやってくるのです。また他所のお宅に「夜のお茶会」に招かれることも多くありました。

また一番高い山が100mというほどの平らな国のせいゆえ、自転車人口がとても多く道も整備されていました。



チボリ公園

結婚式に出席されたこともあったか？

はい。日本では見られない習慣として、新郎の靴下の先と新婦のベールの端をまさみで切って、愛の証として大切にしておく……というのがあります。

あとは、花嫁衣裳にガーターベルトをつけて、花婿がそれをはずして独身男性の輪の中に投げる「ガータートス」。これは他の国でもあると思いますが、当時はそれを知らなかったのので、新郎が新婦のスカートの中にもぐりこんだ時は正直びっくりしました。

デンマークの女性は仕事と子育てを両立しているのでしょうか？

産休と育休を可能な限り取った後、復職する人が多いようです。母親だけでなく、両親で〇〇ヶ月取れる、という制度らしいです。子育ては夫婦共同で行います。

では、性の違いによる役割分担はあまりないのでしょうか？

休日はお父さんが朝のパンを買いに行ったり食事を作ったりします。役割分担を意識したことはなかったです。

珍しいお祭りはありますか？

旧暦でもっとも夜の長い12月13日に「ルシア祭」が行われます。

学校や市などで「ルシア姫」を選びます。選ばれた女の子はこけ桃の小枝で作った冠にロウソクを飾り、白い衣装を着て、キャンドルを持った少女や、三角帽をかぶった少年にお供されて、ジンジャークッキーなどを配り、「サンタルチア」を歌いながら行進します。一行は主に教会や老人ホーム、託児所や学校などを訪れます。

昼が一番短い冬の時期に、闇を払う光の聖女、ルシアを祝うこのお祭りは、白夜の国に住む人々の、祈りにも似た気持ちがこめられているのでしょうか。白い衣装やキャンドルが静かな光をたたえ、とても美しい景色になります。



人魚の像

北欧ならではの、光に対する感謝の心が表れたお祭りなのですね。デンマーク編は今回で終わり、次回からはフランスについてお伝えします。